

ジュニア
ガイド

みず き 水木しげる

魂

の漫画展



妖怪たちの棲む森 / 1979年

好きなことをやりなさい / 2009年

水木しげる 魂の漫画展

2019年6月8日(土)~7月7日(日)

そごう美術館 [横浜駅東口 そごう横浜店 6階]

〒220-8510 横浜市西区高島2-18-1

電話 045(465)5515 (美術館直通)

<http://www.sogo-seibu.jp/common/museum/>

[編集・発行] そごう美術館 2019年6月 ©水木プロダクション



SOGO
横浜

www.sogo-gogo.com

子どもの頃から、絵を描くのが好きだった水木しげるは、
将来絵の仕事をしたと考えていました。

ところが時代は太平洋戦争へと突入していきます。

激戦地ラバウルに送られ、そこで敵の襲撃により左腕を失ってしまったのです。

でも、水木しげるは「左腕がないことより、命があることの方が素晴らしいのだ」と
考えました。そして、「絵を描きたい、絵を仕事にしたい」という思いを買ったのです。

水木しげる漫画研究

水木しげるの作品作りは、
皆さんが学校で行っている
「調べ学習」に似ている！

「調べ学習」とは…

テーマにそった情報を集め、それを深く読みこみ、自分の
考えと結びつけて発展させ、読み手や聞き手にわかりや
すいようにまとめ、作品にしたり発表したりすることです。
水木しげるは、まさにその方法で多くの作品を作りました。



「さくひんを
描くための資料を
テーマ別に
スクラップしていた。」

背景

漫画の場面作りには大切な役割をする背景画。細かい作業のため描くのに大変時間がかかります。そのため、「日頃から資料を集めて整理」しておき、「あとから人物を描き入れるための場所を空けた背景画をたくさん描いておく」など、必要な時にすぐ使える工夫をしていました。

「描きためておいた
背景画を作品に合わせて、
はさみで切り、
のりで貼りつける。」



「かぶきり小僧」



色

着物などを染める「染め粉」を絵の具として使っています。透明感やあざやかさ、重ねることによって作り出される色の世界を感じてみよう。



「ヨーグルトの瓶を
絵の具入れとして
使っていたよ。」



『ゲゲゲの鬼太郎』カラー／1990年代

アイデア

子どものころから本をたくさん読み、いろいろなものをよく観察し、想像力をふくらませる力をつけていきました。漫画のアイデアを24時間考えていたので、ひらめいたことを忘れないように寝る時も枕元にメモ帳を置いておくこともあったそうです。



『ゲゲゲの鬼太郎』
／1967年

「倉ぼっこ」



『シリーズ日本の民話 ポヤ鬼』／1969年

点と線

力を入れたりぬいたりして描く「点」と「線」。思い通りに描けるようになるためには、集中力と繰り返し練習が必要です。水木しげるが表現したい強い思いは、この点と線に込められています。細かい点の重なりや線によって、何かどのように描かれているかよくみてみよう。